

## 見坂茂範 候補予定者 講演要旨

### 配布資料

- 資料1 A4判3つ折りリーフレット
- 資料2 名刺判2つ折りリーフレット
- 資料3 千社札(5枚1組)

**現在の活動** 皆様からこのような会議にお招きいただき、また、多様な形で多大なご支援を賜り誠に有難く、感謝申し上げます。現在の私は、来年の参議院選挙に向けて(立候補した)新人です。全くの無名ですので、自民党への風当たりが強い昨今、私の名前、私の考えを一人でも多くの方に知って頂くべくほぼ毎日地方回りをしております。今回の選挙は特に自民党への逆風下、新人には厳しいと認識しております。

先日の衆議院選挙において自民党は比例区で票を約26%減らしました。来年の選挙でも減ると思います。自民党の全国比例区の人数の平均は17~18人で、自民党が強い頃は全員当選でしたが、来年の選挙では多分10人を切りますので、2名の特別枠を除くと3~10位に入する必要があります。脇先生は民主党政権下での当選では14万票でした。佐藤先生、足立先生は多い時には29万票、少なくとも24万票で当選しています。来年の選挙では14~15万票となる可能性もあり危惧しております。

**プロフィール(資料1)** 私は兵庫県の山間部の多可郡多可町出身で、建設会社で働く土木職人の父を誇りに思い、大学でも土木工学科を専攻し卒業後建設省に入り主に道路関係を中心に携わってきました。そんな中で協会の皆様とは、多方面でお世話になり、議論をさせていただきました。

**働き方改革** 道路局企画課評価室長(H29.7~)勤務の時に、上司から「令和元年から建設コンサルタント分野の働き方改革で残業時間の上限規制が始まるので対応を考えろ」と言われ、当時ブラック業界と言われていましたが、発注者の実態を調査し、1年間議論し施策を提案し、その後改革が進んだと聞いています。

**賃上げ加点と技術者単価** 令和3年の関東地整企画部長を経て、令和4年6月から建設コンサルタント業界の窓口の大臣官房技術調査課長に就き、当時岸田内閣が発足し「民間企業に5%以上の賃上げをお願いした」のを受けて、賃上げには担当する技術者単価のアップが必須と考え、結果的には翌年5.4%(設計業務は7.1%)に上げた。上げるにあたっては、調査結果から異常値を除く等工夫をしました。

ところが、近畿地整局長(R5.7~R6.5)の時に調べると、技術者単価が上がっても予算総額が増えていないため発注件数が減っていた。物価が約2割と人件費が上がっているのだから職域代表の私が必要なことは、公共工事の予算を増やしていくべきと心得ています。実施中期計画の予算は最低でも20兆円にしないと多数の会社がたたき合い、価格競争となり元も子もなくなると思っています。

建設コンサルタント分野の給料は他の産業に比べてまだまだ安い。若い人はシビアであり、他の産業に勝って、担い手不足にならないように技術者単価をもっともっと上げていく必要があります。

**インフラ投資** 建設コンサルタントの仕事は、すごく重要で、測量し設計しないと工事ができない。極めて大事な分野です。これから防災、減災と同じようにインフラに投資していく時代になると思います。米国を見ればわかりますが、インフラへの投資は、国土防衛、安全保障の観点からも実施すべきだと思います。

**下関北九州道路プロジェクト** 福岡県県土整備部長時代(平成30年7月~令和3年3月)の話で、下北プロジェクトは私が道路局の係長の時に担当していて、6つの海峡横断プロジェクトを毎年調査しましたが、国が調査を中止しました。私が同県に赴任時の2年目に、県が細々とやっていた調査を直轄調査に格上げしました。3年目に国直轄調査から計画段階調査に入り、県庁退任時に環境アセスメント(5年間)、都市計画手続きに入りました。令和7年にアセスメントが終わります。このプロジェクトは、九州のため、日本の国益のために必要だと思っています。

**参議院選へ向けて** 私は、佐藤先生、足立先生と違って全く知名度がありません。逆風下ではありますが、むしろ喜んでチャレンジしたいと思っています。とにかく、建設産業界の総力をあげる、そういった選挙だと思っています。いろいろな職域代表としてのぎを削って、一生懸命来年の夏に向けて頑張ります。そのためには、皆様方お一人お一人の力添えが不可欠ですのでよろしくお願い致します。